

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援センターにじいろキッズらいふ 放課後等デイサービス		令和 7年 3月 31日				
	チェック項目	はい		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	0	利用スペースは十分にあるが、長期休みは朝からの利用で、児童発達のお子さんもいるため、遊戯室や多目的ホールや会議室を有効に利用したり、共有計画を作って対応しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	3	0	国の配置基準以上の配置の確保は行っていますが、お子さんの状況で個別対応が必要になる場合などは、予測したり、所属を越えて配置の工夫をしている。	・土祝の配置に人的不足を感じることもある。 ・個別に対応の必要な場合は、もう少し職員配置があるとありがたいと感じるときもあります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	0	こどもたちのスペースは構造化し、活動の工程やスケジュールについては、視覚支援を用いて、安心安全に、実行機能を働かせ安心して活動に取り組めるく風しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	0	・掃除、消毒、整理整頓、片付け等毎日業務の中でやっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	0	お子さんがカームダウンが必要だったり、個別の空間が必要な場合、会議室等空いている部屋での対応を行ったり、一人用テント帽パーテーションを用意し、落ち着けるスペースの確保の工夫を常に行っている。	会議室などは沢山あるが、面談や会議で使用されている場合は、個室を使用することが難しい時もある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	0	支援計画の共有を常勤職員と臨時職員で行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	・改善点の指摘や要望等に迅速に対応している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	・ヒアリング（義務）、日常中でのコミュニケーションで把握している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	0	毎年ではないが、定期的に行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	0	研修や勉強会を設け、資質向上を図っている。専門職によるモニタリングとカンファレンスを行いアセスメントの共有を行っている。	新任職員への新人研修など今後さらに充実するよう構築します。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	0	同法人の複数の他事業所の担当者が集まり、支援プログラム作成にあたり、支援の見直しや、強みを再確認し、一人よがりにならないよう、プログラム作成を行っています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	0	・今年度より実施している。法人内で統一したアセスメントを取り、児童発達支援管理責任者によって取られている。	今後、関わる支援者も共同で行い、専門職からの視点もあると良い。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0	・活動スケジュールや活動記録に個別支援計画を反映して、支援者すべてに対して支援のポイントや振り返りの視点を明確にしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	0		今後は児童発達のような、関係者会議を持ち、専門職や関わる職員全員と一同に共有できる場を検討したい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0		お子さん一人一人に合った移行支援や地域連携の充実を考えるとともに、資源の開拓も行って行きたいと思っています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	0	担当制で作成し、職員へはミーティングの際伝える事と起案で共有して活動の目的や手立ての共有を図る工夫をしています。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	0	・個別の支援内容を逸脱したマンネリ化や固定化は避けている。ただ、積み重ねることで安心を感じたり、自信を持って取り組める事もあるため、精査しながら工夫を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	0	毎日送迎前にミーティングを行い、支援内容、役割分担や留意事項の確認、送迎の確認を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	1	支援終了後に行う事と、次の日の午前中にしっかりと打ち合わせをして共有や改善等行ってます。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	0	個別支援計画のつと、目標に対しての評価を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0	専門職のモニタリングも行う事で多面的にお子さんの状況を捉え支援に反映させています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	3	0	利用するお子さんの発達や特性を踏まえグルーピングを行うことで、活動の幅が広がり、お子さんにとって満足度の高い活動の提供に努めています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3	0	活動の中に選択肢を設け自己選択できる機会の保障に努めています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0	児童発達支援管理責任者をはじめ、必要に応じ看護師等や、担当職員も同席し支援の共通理解の促進に努めています。人員配置的に会議への参加が難しい時には、児発管との事前の打ち合わせを行い会議に参加しています。	支援時間と重なる会議の場合、担当の会議への参加が難しい場合がある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	0	学校や他事業所との連携は、支援会議を中心に行っています。医療的ケア児の支援については、にじいろキッズらいふの顧問医師に相談したり、医師やコーディネーターに地域に入室していただき、児童センタープラザで疾病や支援の研修などアウトリーチを行い連携をしています。	学校の先生や他事業所との日常の中での連携は、必要に応じて電話や保護者の方を返して行っていますが、もっと積極的に相互の連携ができるといいなと感じています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	0	事前に学校と確認し、年間予定表を交換し必要に応じメールなどで連絡調整を行いますが、基本的には、お子さんのキャンセルや欠席などについては保護者が各関係者へ伝達する仕組みになっています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	0	ステージが変わる移行支援ですので、日にちを決めて、関わる職員一同で丁寧に移行支援を行っています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	0	保護者の方には、最後の移行支援の際には、同席させてもらえるようお願いしています。	プランの切り替えの時期に関わる事業所や就労先の方も見て会議を持っていますが、他法人の相談支援専門員によっては、放デイの事業所が呼ばれない事がある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	0	研修や専門職によるモニタリングやカンファレンスを定期的実施し、資質向上を図っています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	2		同法人の連携している放デイでお子さんが一緒に活動することはありますが、今後は地域との関わりをを広げ深めていきたいと思っています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	1	放課後等デイサービス説明会では実行委員として参画し、放課後等デイサービス事業所連絡会への参加を積極的に行っています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3	0	保護者の方の相談を随時受けたり、集団の中で見られるお子さんの強みなどお話しさせていただく他、ご家庭の様子をお聞きし支援に活かしています。また、保護者面談も年2回実施しており、共通理解に努めています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	1	にじいろキッズらいふで年2回(4回1セット)としてペアレントサポートを行っています。必要に応じ、保護者の方には受講をお勧めしています。	今後、みなさんに知っていただけるように周知の方法を検討します。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	児童発達支援管理責任者にとって、丁寧に説明させていただきます。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0	保護者面談のほかに、お迎えの際はご家族と直接お話しする機会があるため、こどもの思い、保護者の思いを丁寧に聞き取らせていただいています。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3	0	支援計画作成後は、保護者の方一人一人に個別で計画や支援についてご説明させていただき、共通認識で支援に取り組んでいます。お仕事などの調整をしていただき時間を作っていただいていることに感謝申し上げます。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	0	保護者面談や、お迎えの先は、ご家族と顔を合わせてお話しする時間を確保しております。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	1	保護者の方向士が交流したいとき、また親の会で活動しやすいようににじろキッズらいふの中に保護者が使える専用の部屋をひとつ用意しており、Wi-Fi環境やプリンターなど設置してあります。	ごきょうだいの相談は沢山受けますが、ごきょうだい同士の交流する機会は作れていませんが、今後検討してまいります。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	0	SNSでは発信していないが、お便りは毎月『こどもん』システムにて送っています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0	個人情報同意書を保護者の方にいただいており、十分留意しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0	日常において、保護者の方との信頼関係を築いています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	0	アルバイトやボランティアの受け入れを行うほか、大学との連携を密にし、活動体験を工夫行っています。	ボランティアの受け入れを積極的に行うほか、学生の方々との交流を今後検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	0	各マニュアルについては、職員の全体研修で周知するほか、感染症や災害時、緊急時のマニュアルなどは周知しながら、訓練を取り入れ誰でも対応出来るように工夫しています。ご家族にお伝えしているマニュアルについては、医療的ケア児の緊急時マニュアル等については保護者の方と主治医も含め作成しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	0	緊急時の安否確認は、アプリ等のシステムを利用して連絡や居場所の確認がしやすいよう工夫しています。	非常食の試食などこれから行い、災害時や緊急時に備えたいと考えています。災害時の地域との連携や福祉避難所との連携はまだ不十分と考えています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	0	顧問医師や看護師、主治医からの指導を受け、必ずこどもの既往歴等を丁寧にアセスメントして、緊急時への対策をしています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	0	アレルギーのあるお子さんは、保護者の方にアセスメント表に記入していただいています。	アレルギーの指示書を主治医に作成していただきアレルギー対応の安全管理を徹底していれば必要があるため検討します。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	0	プログラムの研修等利用されるお子さんに必要な医療ケアの研修等は随時行うほか、感染症対策など、年間で計画し実施している研修もあります。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	0	緊急時の連絡、安否確認、対応マニュアル作成の時に、保護者の方に伺い、同時に主治医のアドバイスも受けて作成している。アセスメントシートや薬剤情報所の更新は年度ごと実施している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	0	ヒヤリハットはその都度出してもらい、再発防止の対策も同時に考え周知しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0	虐待防止、権利擁護の研修等は法人内の研修や外部の研修など積極的に参加し、安心安全な環境とこどもたちに最善の支援ができるよう取り組んでいます。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	0			